

勝俣電事連会長 定例記者会見要旨
(2006年1月20日)

1. はじめに

- ◎ 本日は、今年初めての会見です。エネルギー記者会の皆さまには、本年もいろいろとお世話になることと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- さて、今年は年始早々、天然ガスを巡るロシアとウクライナの確執が大きく表面化したほか、昨年来の原油価格高騰が続いており、7月にはロシアのサンクトペテルブルグで開催される G8 サミットでもエネルギー安全保障が最大の焦点になるといわれています。それだけに今年は、「エネルギーの年」であると思っておりますし、特に、「原子力の前進の年」でありたいと考えております。

2. 原子力の着実な推進

- ◎ まず、原子力について、私ども電気事業者は、今年も「サイクルを含めた原子力の着実な推進と安全確保」を最重要課題として全力で取り組んでいく所存であります。
- とりわけ今年は、日本原燃の六ヶ所再処理工場のアクティブ試験開始が2月に予定されており、わが国の原子燃料サイクルが正念場を迎えることになります。青森県ならびに地元の方々のご理解を得て、安全確保と品質管理を大前提として着実に前進することを期待しています。
- また、アクティブ試験の前に公表することになっておりました、プルトニウム利用計画につきましては、2012年からの六ヶ所MOX燃料工場の稼働を見据えて、電力各社が去る6日に、公表いたしました。
- 電事連としても平和利用に向けた透明性を確保する観点から、各社の計画をとりまとめ、同じ日に公表させていただきました。翌週の10日には原子力委員会において各事業者のヒアリングが実施されており、現在、同委員会においてその妥当性について確認をいただいているところです。
- 最近では九州、四国、中国、中部、電源開発の各社でプルサーマル計画の進展が見られており、電力業界として引き続き、実施に向けた理解活動等に

不退転の決意で取り組んでいく所存です。

- 同時に、安全確保を大前提に原子力発電所の安定運転の実績をひとつひとつ積み重ねてまいりたいと考えています。

3. エネルギー基本計画の見直し

- ◎ さて、冒頭、私が今年は「エネルギーの年」と申し上げたのには、もう一つの意義があります。この秋で3年目を迎える「エネルギー基本計画」について、見直しを行うことが予定されております。今年はエネルギーについては是非徹底した議論を重ねたいと考えています。
- 2002年6月に制定された「エネルギー政策基本法」に基づき、エネルギーの需給の施策に関する基本方針を定めたものが「エネルギー基本計画」（2003年10月）であります。
- 最近の中国、インドなどアジア地域におけるエネルギー需要の急増、そして世界のエネルギー需給構造の変化に伴うエネルギー安全保障の問題、地球環境問題への対応、さらには電力・ガスの自由化の進展など、エネルギーを巡る国内外の情勢は、この3年間で大きく変化しております。
- 今度のエネルギー基本計画については、このような情勢変化を背景に、原油価格の高騰や燃料調達の困難性の高まりなどに対応する「安定供給の確保」、「環境への適合」、「市場原理の活用」という国のエネルギー政策の基本方針を踏まえ、高齢化社会の到来や国民のライフスタイルの変化も視野に入れた、総合的な視点に立った見直しがなされるものと認識しております。
- 来月から総合資源エネルギー調査会総合部会において見直しのための検討が始まるものと伺っており、私どもとしては機会をとらえて、積極的に意見を発信してまいりたいと考えています。

4. 記録的雪害への対応

- ◎ 最後になりましたが、昨年末、新潟県下では記録的な大雪と寒波による塩雪害のため約65万戸の停電が発生しました。その原因と対策などについては過日、東北電力から報告がなされておりますので、私からは電力間の復旧応援について一言ご報告させていただきます。

- 電力会社間では、昭和 39 年の新潟地震を契機に相互応援体制が作られ、その後、災害が発生するごとに拡充されてきました。具体的には、あらかじめ日本全国を東・中・西の 3 つのエリアに分け、万一の場合、たとえ応援要請がなくてもエリアの中で隣りの電力会社が即座に応援準備体制を敷き、要請があり次第、迅速な復旧応援を図るシステムとなっております。
- 今回も相互応援体制の下で私どもとしては、一日も早い送電復旧に向けた応援のために、送電線の碍子清掃のための要員 85 名を含めた 203 名の要員派遣のほか、発電機を搭載した車両 22 台を含め 58 台の車両を派遣しました。ただ、その多くが道路不通などのため、なかなか現場へたどり着けなかったほど異常な気象条件であったということも事実です。こうした厳しい条件の下でも、早期復旧のために進んで現場に向かう職員の姿を見るにつけ、電力の安定供給を確保しようという伝統的な一種の DNA が今日でも電気事業の中に脈々と受け継がれていると感じ、大変心強い思いがいたしました。同時に、今後、自由化競争が激しさを増す中でも、この大切な DNA を良き伝統として電気事業の中にしっかりと受け継いでいくことが重要だと感じた次第であります。
- いずれにしても、このたびの塩雪害で迅速な復旧に全力を尽くされた東北電力はもとより、電力各社ならびに、電力業界全体として、今後も電力の安定供給に全力を注いでまいり所存です。
- 今年も一年、また、いろいろとお世話になります。何卒よろしく願ひいたします。私からは以上です。

以 上